

科目名	社会保障論(後期／通年)									
科目名(英)	Social Security									
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		林 孝和	
実施年度	2020年度		実施時期		後期／通年		担当者実務経験		社会福祉士として教員勤務	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年									
授業概要	社会保障制度の各論を講義する。医療保険制度、介護保険制度、労働者災害補償保険制度、雇用保険制度、労働問題、生活保護制度、世界の社会保険制度の比較を取り上げる。社会保障に関する新聞記事や最近の出来事を取り上げ、配布資料をもとに講義を進め、視聴覚教材を使用することによりさらに理解を深める。									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				医療保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。				
	○	○				介護保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。				
	○	○				労働保険制度(労災保険、雇用保険)の内容を理解し、その概要を説明することができる。				
	○	○				生活保護制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。				
	○	○				世界の社会保障制度との比較をとおして、我が国の特徴を知り説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 社会福祉士養成講座12「社会保障論」第6版 ・中央法規出版 見て覚える！社会福祉士国試ナビ									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	16	社会保障論とは何を学ぶのか 前期の振り返りと後期授業の概観								
	17	医療保険制度の全体像								
	18	健康保険制度と共済制度の概要								
	19	国民健康保険制度の概要								
	20	後期高齢者医療制度の概要								
	21	介護保険制度の全体像								
	22	介護保険制度 被保険者がサービスを利用するプロセス								
	23	介護保険制度 介護保険で利用できる具体的なサービス								
	24	労働者災害補償保険の概要								
	25	雇用保険制度の概要								
	26	労働現場で起きる労働問題にどう対処するのか								
	27	労働保険制度(労災保険、雇用保険)のまとめ								
	28	生活保護制度の概要								
	29	世界の社会保障制度の紹介 我が国との比較								
	30	総括・まとめ								
評価方法	(1)定期試験(マークシート、論述等)を実施する。(2)配布資料を提出させる。(3)授業内で発表させる。以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	○				80%			
	小テスト									
	宿題・レポート									
	発表・作品				○		10%			
	提出物				○		10%			
履修上の注意	通年で出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	地域福祉論(後期／通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期／通年	担当者実務経験	社会福祉士として スクールソーシャルワーカーで勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	福祉現場において、ミクロ・メゾ・マクロの視点を持ち、個人の福祉課題を地域の福祉課題と捉えコミュニティソーシャルワークの実践につなげることでできる人材の育成を目標とする。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の発展過程について説明することができる	
		○				地域福祉の主体について字ひ、福祉教育の必要性と方法についての説明することができる	
	○					地域福祉実践における行政組織の役割について説明することができる	
	○					地域福祉実践における民間組織の役割について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座9「地域福祉の理論と方法」中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	前期の振り返り					
	17	ソーシャルサポートネットワーク					
	18	社会資源の活用・調整・開発					
	19	社会資源の活用・調整・開発					
	20	精神障害と地域生活					
	21	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	22	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	23	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	24	地域福祉課題について考える					
	25	地域福祉課題について考える					
	26	地域福祉課題について考える					
	27	地域トータルケアシステムの構築と実際					
	28	災害支援について					
	29	災害支援について					
	30	試験前オリエンテーション					
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		○		◎		20%
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。 出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名		老人福祉論(後期／通年)					
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	棧原 弘司	
実施年度	2020年度		実施時期	後期／通年	担当者実務経験	独立型社会福祉士	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく。-①高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待、地域移行、高齢者就労を含む)について理解させる、②高齢者福祉制度の発展過程について理解させる、③介護の概念や対象及びその理念等について理解させる、④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解させる、⑤終末期ケアの在り方(人間観、死生観を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					高齢者の生活実態について説明できる。	
	○	◎		○		高齢者を取り巻く社会情勢について説明できる。	
	◎					高齢者の福祉需要について説明できる。	
	◎					高齢者福祉制度の発展過程について説明できる。	
	◎					高齢者介護の概念・対象・理念について説明できる。	
	◎					高齢者介護過程における基本的な技法を説明できる。	
	○	◎		○		高齢者介護過程における基本的な技法を行うことができる。	
	◎					高齢者介護予防の基本的な考え方を説明できる。	
	◎					終末期ケアの在り方について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「高齢者に対する支援と介護保険制度」(中央法規出版㈱)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	介護保険サービスの体系 一 居宅サービスと施設サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	介護保険サービスの体系 一 介護予防サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	介護保険サービスの体系 一 地域密着型サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	高齢者を支援する組織と役割 一 行政機関、地域包括支援センター等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	高齢者支援の方法と実際 一 連携と実際				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	21	高齢者を支える専門職の役割と実際 一 専門職倫理と多職種連携				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	介護の概念や対象 一 介護の概念・理念・対象				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	介護予防の概念や対象 一 介護予防の概念・理念・対象				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	24	介護過程 一 概要、展開技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25	自立に向けた介護(介護各論) 一 家事・整容・移動・食事・口腔衛生・入浴・清潔・排泄等各場面における自立支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	26	介護過程 一[演習] 自立に向けた介護(退院に伴う在宅介護体制の構築)の具体的な検討				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	27	尊厳ある介護(介護各論) 一 認知症ケア				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	28	尊厳ある介護(介護各論) 一 終末期ケア				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	29	尊厳ある介護(介護各論) 一 住環境整備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	30	後期(第16回～29回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト				教科書の該当範囲の復習をしておくこと	
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を2回実施する。＊成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題提出・発表等	○	◎		○		20%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉施設経営論(後期／通年)											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		百枝孝泰			
実施年度	2020年度		実施時期		後期／通年		担当者実務経験		高齢者施設にて施設長として勤務			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年											
授業概要	福祉サービスの中核を担う専門職として必要な福祉サービスを提供する組織やその経営や管理についての基礎的な知識について習得する。											
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	◎	○		◎		福祉サービスにかかわる組織や団体について説明できる						
	◎	○		◎		福祉サービスの組織と経営に関する基礎的な理論を説明できる						
	○	◎		◎		福祉サービスの管理運営法の基礎を説明できる						
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会 / 「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営/ 中央法規出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	16	福祉サービスの管理運営の方法(1)サービスマネジメント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	17	福祉サービスの管理運営の方法(2)マーケティング					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	18	福祉サービスの管理運営の方法(3)福祉サービスの質の評価					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	19	福祉サービスの管理運営の方法(4)福祉サービスの質の評価					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	20	福祉サービスの管理運営の方法(5)苦情対応とリスクマネジメント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	21	福祉サービスの管理運営の方法(6)サービス提供のあり方の方向					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	22	福祉サービスの管理運営の方法(1)人材確保と育成					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	23	福祉サービスの管理運営の方法(2)人事管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	24	福祉サービスの管理運営の方法(3)労務管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	25	福祉サービスの管理運営の方法(4)人材育成の意義					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	26	福祉サービスの管理運営の方法(5)経営管理と育成					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	27	福祉サービスの管理運営の方法(1)財務管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	28	福祉サービスの管理運営の方法(2)会計管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	29	福祉サービスの管理運営の方法(3)情報管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	30	振り返り										
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		○								80%
	小テスト	◎		◎				○				5%
	宿題・レポート	○		○				◎				5%
	発表・作品							◎				10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	家庭福祉論						
科目名(英)	Family Welfare						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	郡嶋かおる	
実施年度	2020		実施時期	後期	担当者実務経験	障がい児者施設指導員後福祉大学教員	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	従来、家庭は育児や介護などの福祉的機能を有していると考えられていた。しかし、昨今の小家族化、ライフスタイルの変化、家族の多様化等々により家族は希薄化、弱体化している。また、家庭内で起きる子育て不安、児童虐待(殺人)、DV、介護問題非行、介護殺人など報道されている。家族のだれもが犠牲にならず自己実現していくためのしていくための視点や社会資源等について考察する。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					家庭福祉の重要性について説明することができる	
		○				家族に起こりやすい課題と支援のための社会資源について説明できる。	
		○				家族はシステムであることについて説明できる。	
				○		家族を支援するうえでの留意点について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	資料配布するく家族福祉論-全体としての家族へのサポート(相澤譲治／栗山尚子勁草書房)、家族福祉論 川村匡由 ミネルヴァ書房「、国民の福祉と介護の動向」「社会福祉士の教科書」TAC出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	家庭・家族福祉の位置づけ				自分の家庭・家族から考える	
	2	家庭・家族福祉の歴史的展開					
	3	家庭・家族に対する福祉政策					
	4	家庭・家族ソーシャルワーク					
	5	児童虐待と家庭・家族福祉					
	6	児童養護と家庭・家族福祉					
	7	ひとり親家庭と家庭・家族福祉					
	8	高齢者虐待と家庭・家族福祉				高齢者福祉について調べておく	
	9	認知症高齢者と家庭・家族福祉					
	10	一人暮らし高齢者と家庭・家族福祉					
	11	女性福祉と家庭・家族福祉					
	12	生活保護と家庭・家族福祉				公的扶助に関して調べておく	
	13	障がい児者と家庭・家族福祉					
	14	外国人世帯と家庭・家族福祉					
	15	地域で支える家庭・家族福祉					
評価方法	①授業のなかでミニテストを3回実施する。②毎回授業の振り返りを提出する。 定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	本試験	◎	◎				70%
	ミニテスト	◎	○				10%
	ふりかえり提出				◎		10%
履修上の注意	内容は状況によって変更することがある。積極的に発言すること。配布資料を閉じるためのファイルを準備すること。 出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	公的扶助論						
科目名(英)	Public assistance theory						
単位数	2単位		時間数	15時間	担当者	三谷 茂男	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	担当者実務経験	市役所にてCW、面接員として勤務	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	・公的扶助はどのように生まれ、どう変わり、現代にいか機能しているかを学ぶ。その際、諸外国の歴史や日本での発展過程も学ぶ。 ・現代の貧困(子ども、高齢者など)の実態を学び、公的扶助制度がどのような機能を果たしているかを学ぶ。 ・講義を中心に進めるが、適宜、レジメによる確認や受講者同士のグループワークを取り入れる。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代の貧困の実態を理解し、貧困の原因を説明できる。	
	○					公的扶助の歴史的展開と貧困理論を説明できる。	
	○					日本の生活保護制度の概要を説明できる。	
	○					低所得者対策の概要を説明できる。	
				○		確認テストや発表を積極的に行える。	
テキスト・教材 参考図書	『低所得者に対する支援と生活保護制度』、中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	公的扶助の概念				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。	
	2	貧困・低所得者問題と社会的排除				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	3	公的扶助の歴史①				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	4	公的扶助の歴史②				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	5	公的扶助の歴史③				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	6	生活保護制度の仕組み①				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	7	生活保護制度の仕組み②				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	8	生活保護制度の仕組み③				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	9	生活保護制度の仕組み④				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	10	生活保護の動向				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	11	低所得者対策の概要①				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	12	低所得者対策の概要②				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	13	生活困窮者自立支援法と最近の政策動向				・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。	
	14	判決・裁決に学ぶ				・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。 ・グループワークに積極的に参加すること。	
	15	個人発表				・個人発表ができるよう、練習しておくこと。	
評価方法	・定期試験(筆記) 70%・・・講義内容を理解しているか、自分の考えを論理的に展開できるかを評価します。 ・日常的な授業における取組状況の評価 30%・・・毎回行う振り返りの理解度 20%、講義中の発言当 10%						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	確認テスト	◎	○				20%
	態度・発表				◎		10%
履修上の注意	・新聞等を中心に社会的問題に常に関心を持ってください。 ・他の受講生の学習環境を阻害する行為は禁止とします。 ・出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ（後期/通年）									
科目名(英)	Social Work Support ExerciseⅡ									
単位数	8		時間数		120		担当者		亀田 尚	
実施年度	2020年度		実施時期		(後期/通年)		担当者実務経験		障害者施設 支援員 7年回	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年									
授業概要	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○	○	○		ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。				
		○	○	○		卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	31～36	卒業研究11～17 グループごと、テーマを明らかにするために実地調査を実施する。								
	37	九州の社会問題 沖縄戦と後遺症1～3 沖縄戦の実際について学び、後遺症に苦しむ人たちの現状について考え、自分たちに何ができるかを考察する。								
	38									
	39～46	卒業研究17～24 実地調査を行い、結果を文章に落としていく。								
	47	ドメスティック・バイオレンスの現実と支援2								
	48	ドメスティック・バイオレンスの現実と支援3								
	49～56	卒業研究24～32 卒業論文を書き進めて、担当教員からの指示の元に修正を繰り返す。								
	57	卒研発表会準備1～3 グループごと、卒業研究発表会の資料を作成する。								
	58									
	59	卒研発表会1～2 卒業研究発表会を実施し、SW科1～3年生、および担当教員に成果を発表し、質問・講評等を受ける。								
	60									

評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	○		◎	○	40%
	発表・作品	◎	○		◎	○	40%
	出席率				◎		20%
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉現場実習指導Ⅱ（後期/通年）										
科目名(英)	Social Work Training ilstructionⅡ										
単位数	4		時間数		60		担当者		亀田 尚		
実施年度	2020年度		実施時期		(後期/通年)		担当者実務経験		障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年										
授業概要	社会福祉現場実習指導Ⅰを土台として、相談援助技術の専門性を知識・技術・価値の側面から理解した上で、実践的な知識を更に滋養し、具体的かつ実践的な技術等を体得する。										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
	○					行政実習の目的・内容を理解する。					
	○					施設実習の目的・内容を理解する。					
		○				ソーシャルワーク実習をイメージでき、学びのポイントを理解できるようになる。					
				○		実習を振り返り、自分自身の課題を認識できるようになる。					
テキスト・教材 参考図書	『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』 中央法規										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	16	行政実習の注意事項									
	17	行政実習 お礼状・申し送り簿作成									
	18	施設実習 定期申請・腸内細菌検査									
	19	障害者施設の支援員の役割 ＜外部講師＞									
	20	実習の最終確認・注意事項 実習記録の書き方									
	21	実習前審査									
	22	事前訪問									
	23	高齢者施設の支援員の役割 ＜外部講師＞									
	24	実習事後指導 お礼状・申し送り簿・実習報告書の作成1～2									
	25										
	26	実習報告書の作成1～3									
	27										
	28										
	29	実習報告会の準備									
	30	実習報告会									
評価方法	通常授業の発表・意欲・態度等を総合的に判断して評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験										
	小テスト										
	宿題・レポート										
	発表・作品		◎		○		◎		○		80%
	出席率						◎				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、単位を取得することができない。										



科目名	社会福祉現場実習												
科目名(英)	Social Work Training												
単位数	4単位		時間数		180時間		担当者		亀田 尚				
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験		障害者施設 支援員 7年間				
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年生												
授業概要	社会福祉現場実習指導Ⅰを土台として、相談援助技術の専門性を知識・技術・価値の側面から理解した上で、実践的な知識を更に滋養し、具体的かつ実践的な技術等を体得する。												
授業形式	講義:			演習:		実習: ○		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標							
	○					行政実習の目的・内容を理解する。							
	○					施設実習の目的・内容を理解する。							
		○				ソーシャルワーク実習をイメージでき、学びのポイントを理解できるようになる。							
				○		実習を振り返り、自分自身の課題を認識できるようになる。							
テキスト・教材 参考図書	『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』 中央法規												
授業計画	授業項目・内容						授業外学修指示						
	1. 行政実習(3日間) ①福祉事務所の各部署と、その業務内容のレクチャーを受ける。 ②現場のケースワーカーから直接業務についてのレクチャーを受け る。 ③関連する施設等の見学を行なう。  2. 施設(機関)実習(20日間) ①実習施設(機関)がどのような組織か、「職場理解」を深める。 ②実習先の利用者との関係を築き、利用者理解を深めることから支 援のあり方を修得する。また、個別支援計画等の実践を行な う。 ③利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形 成 を図る。 ④福祉・保健・医療に係る多職種連携をはじめとする支援に おける チームアプローチの実際を理解する。 ⑤社会福祉士としての職業倫理と法的義務への理解する。 ⑥施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の 実 際を学ぶ。 ⑦当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等 である												
評価方法	実習先による評価をもとに、巡回教員による評価を加味して総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。												
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合	
	実習先による評価		◎		○		○		◎		○		80%
	学校jの評価		◎		○		○		◎		○		20%
履修上の注意	出席が23回に満たない場合は、単位を取得することができない。												